

## ご意見・ご感想

「第5回鶴川駅を考える会」では、多くみなさまのご参加により、盛況のうちに会を終えることができました。会を終えて様々なご意見やご感想をいただきましたのでご紹介いたします。

### 得たことや発見したこと

- ・鶴川の資源としての“鶴見川”の発見。駅に近い川が生かされていない現状。(60代男性)
- ・誰が運営していくのかという点では、どのくらいアイデアに対してリアリティーがあるのかが分からない。委員会やプロジェクトが立ち上がって実際に動けるのか。(30代男性)
- ・線路上部に吹き抜けを取ることを知ることができた。(50代男性)
- ・参加者が持っている地域愛が芽ばえて来ている。(80代女性)
- ・住民の駅を良くしたいという思いを感じました。(40代男性)

### 今後、取り組みたいテーマ・活動

- ・鶴川駅を利用する学生（国士館大学、和光大学他）の声を聞いてみたいです。(30代女性)
- ・鉄道だけでなく、路線バスも取り組んでいただければ鶴川の知らない散歩コースやサイクリングコースなども新たに考えられるのではないかと思います。(60代女性)
- ・本回の後で意見交換する場を設けるのは良いアイデア！（60代男性）

### ワークショップの感想

- ・鶴川の自然、文化が末永く守られますように！（60代女性）
- ・アートスペースの運営のために委員会は必要ですが、それが排他的な組織になることはよくないと思います。(30代女性)
- ・意見がまとまらず苦労した。それくらい多様な可能性があるということでもあると思う。(30代男性)

## 今後の予定

第6回 7/20(土)10:00~12:00  
@和光大学ポプリホール鶴川 3F多目的室

第7回 8/17(土)14:00~16:00  
@和光大学ポプリホール鶴川 3F多目的室

次回の「鶴川駅を考える会」は7月20日(土)10:00~の開催予定です。参加をご希望の方は右記のQRコードまたは、URLからwebにアクセスの上、お申し込みください。皆様のご参加を楽しみにお待ちしております。

※定員は50名(先着順)となります。



<https://goo.gl/forms/Kq26noBlzUptEfYA3>

第5回 6/29(土)14:00~16:00  
@和光大学ポプリホール鶴川 多目的室

## 模型を使って駅での活動の「仕組み」を考えました

和光大学ポプリホール鶴川の3階多目的室にて、以下のような次第で「第5回鶴川駅を考える会」が開催されました。

- 14:00  
・「第4回鶴川駅を考える会」の振り返り
- 14:10  
・ワークショップの内容についての説明
- 14:20  
・前回の成果をまとめた3つのテーマに基づく模型を見ながら、駅での活動の仕組みを考える
- 15:30  
・各グループで話し合った内容を発表
- 15:55  
・感想カード記入 ・記念撮影
- 16:00  
・閉会后ミニ懇親会
- 16:45



# みんなの鶴川駅プロジェクト

## 鶴川駅を考える会

ニュースレター

No. 05

## 前回の提案から生まれた3つのテーマに基づく模型

「第4回鶴川駅を考える会」では、各グループから自由通路を起点に、多くのアクティビティに関するアイデアが生まれました。それらのアイデアを親和性の高いものどうしでまとめると、「情報・仕事・勉強」「自然・子育て・運動」「アート・音楽・マルシェ」という3つテーマに分けられました。今回はそれぞれのテーマを表現した模型を用いて、ワークショップを行いました。



## 模型を見ながらそれぞれの活動の「仕組み」を考えました

### 1. アクティビティのアイデアを拡げる

模型に表現されたアクティビティを参考にしながら、新しいアクティビティや空間の活用方法についてのアイデアを拡げました。今回は考える範囲が駅の構内や駅前広場にも及んだため、より広範囲にわたる具体的なアイデアが多く提案されていました。



### 2. 模型に表現されたアクティビティの「仕組み」を考える

前回や今回のワークショップで提案された沢山のアクティビティを実現させるための「仕組み」を考えました。「誰が?」「誰のために?」「何のために?」「どうやって?」「どこで?」等について考えることで、運営の主体や方法についてのアイデアを出していきました。難易度の高いワークの内容でしたが、各グループからは現実的に考えられたアクティビティの仕組みについて、様々なが提案が出されました。



## こんな成果がありました!

### 情報・仕事・勉強 定額の駅内図書館&会議室

駅が出来る頃には、Wi-Fi や入場券という仕組み自体無いかもしれない。月額払い等で電車が乗り放題になり、それに付随して、貸し会議室や行政の枠を超えた駅内図書館などの仕組みができるとうい。

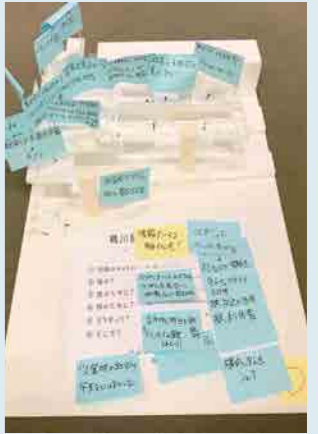
グループ A



### 情報・仕事・勉強 情報技術で運営する駅

ロボットによる駅内での情報案内や、タッチディスプレイの伝言板など、情報技術を駆使した仕組みを整備する。さらに、駅内外の空間をシェアオフィスや打合せスペースとして有効活用する。

グループ D



### 自然・子育て・運動 若い世代が受け継ぐ駅

野菜販売を行うアグリハウスなどの団体に働きかけてイベントスペースを活用してもらう。その活動に学生が関わり、駅舎に若い世代の居場所ができて、その風景が鶴川らしさにつながっていくとうい。

自然・子育て・運動

グループ B



### 自然・子育て・運動 大きなイベントスペース

自由通路を延長したデッキを駅の周囲に回したり、コンコースを2層にしたりするなど、開放的で大きなスペースを確保する。各スペースは有料で貸出し、そこで得た収入によって運営する。

グループ E

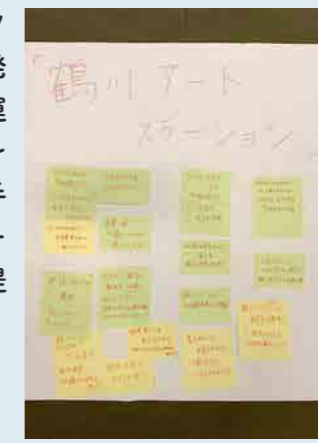


### アート・音楽・マルシェ 鶴川アート&スポーツステーション

鶴川アート&スポーツステーション委員会を発足し、地元の人たちで運営する。駅のスペースを利用して、ゼルビア選手とのふれあいの場やアート・音楽の発表の場を提供する仕組みを整える。

アート・音楽・マルシェ

グループ C



### アート・音楽・マルシェ やすらぎのまち鶴川

アート・音楽の運営委員会を設置し、レンタルスペースを地元のアーティストが発表の場として利用できるように運営する。お祭りのイベントは避け、静かで安らぎのある鶴川の特長を活かす。

グループ F



## まとめ

今回はこれまでの「鶴川駅を考える会」で提案されてきた様々なアクティビティに対して、それを実現させるための具体的な「仕組み」を考えました。次回以降は、これまで考えてきたアクティビティやその仕組みが実際の全体計画の中でどのように実現できるか、より現実的な条件の中で考えていきます!